

# 新上五島町

まだ見ぬ歴史が眠る  
日本遺産をめぐる

※中通島、若松島など7つの有人島と60の無人島から構成されている新上五島町。海岸線の延長は429kmにおよび、複雑で変化に富んだ地形が特徴。町の大部分が西海国立公園に指定されている風光明媚な島。人口約19,800人。

← 新上五島町



日島の石塔群のひとつ「釜崎宝篋印塔」は1362(正平22)年に建てられたもの。海を見下ろす丘の頂上部分にあり、航海の無事を祈願していたものだろうか。

海に向かって立つ石塔群。石には文字が刻まれておらず、誰の墓かは分かっていない。



山王山の一之宮



若松大橋から山王山を望む



遣唐使船の航海の安全を祈願した「姫神社」の跡

五島は海とともにある島で、ロマンあふれる史跡がたくさんあります。山王山はぜひ見ていただきたいスポットです。

荒木貞美さん  
「上五島歴史と文化の会」理事。  
上五島の史跡や近現代史に精通している。

※/日本遺産  
地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するもの。ストーリーを語る上で欠かせない魅力あふれる有形や無形の様々な文化財群を地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としている。新上五島町は「国境の島 志岐・対馬・五島」古代からの架け橋」として認定された。



日本遺産  
ロゴマーク

日本遺産 検索



かつて大陸へとつながる海の道の中継地だった新上五島町は二〇一五年、志岐や対馬とともに「日本遺産」第一号に認定された。その構成文化財のひとつ「日島の石塔群」へ向かった。

日島は南北朝時代から室町時代末期にかけて、さまざまな交易船の中継基地の役割を果たしていた。案内してくれた「上五島歴史と文化の会」の荒木貞美さんは、海岸沿いに立つこの無数の石塔が鎌倉から室町時代にかけての墓碑だと話す。交易のために海を渡り、この地で命を落とした人たちの墓だというのだ。「日島は当時、人目につかず入り江の奥深くに船を隠すことができ、交易の中継地としては最適でした。資料上は少ないですが、ここには異国の使節の墓地と推定されるものもあります。また、船乗り

たちは、外洋へ乗り出す前には生前供養を行い、墓碑を建立して旅立ちました。こうした墓を「逆修墓」といいます。海の生活者にとっては、板子一枚波の上、壮絶な覚悟があったに違いありません。

日島の石塔群の魅力は、道路を渡ったすぐ向こう側にもある。鬱蒼とした木々の間を歩いていくと、江戸、明治、大正、昭和と、それぞれの時代の墓が立ち並び、厳かな気持ちになる。荒木さんによれば、この辺りでは弥生時代の墓も見つかっているという。海岸沿いには現代の墓もあり、墓参りに訪れる人の姿も見られた。長期間にわたって墓地として営まれた地が、これだけの規模で残っているのは大変珍しい。波音だけが聴こえるこの地で、人々は脈々と死者を弔ってきたのだらう。台風が来るたびに倒れるという石塔は、地元の人たちによって積み直されるといふ。

新上五島町には、この他にも「遣唐使史跡」や「最澄ゆかりの山王信仰」といった構成文化財がある。海を渡り、無事に帰り着いた遣唐使が奉った「御船様」は舟の形をした石で、神仏の加護なくしては帰ってこられないと考えた古代の人々の想いが見えるようだ。また最澄が遣唐使の航海安全を祈願し、無事に帰国した後に勧進したといわれる「山王山」も見どころのひとつ。山道を進み、ようやくたどり着く「一之宮」には神秘的な空気が漂っている。そこは、時を超えた今も人々の心の拠りどころとなっていた。